

# 令和2年度（2020年度）佐渡市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

佐渡地域においては、生物多様性農業を推進する「朱鷺と暮らす郷認証米」を中心とした水稲を核として、おけさ柿・ルレクチエ・りんご等の果樹、いちご・アスパラガス等の園芸作物、そば・大豆等多種多様な作物が生産されている。

また、佐渡市は国内で唯一、野生下で国際保護鳥のトキの自然繁殖が成功しており、その生息数は平成31年2月現在で350羽を超え、国が示すトキ野生復帰ロードマップの目標も2年前倒しで平成30年6月には達成された。これは、トキの主な餌場となる生物多様性豊かな水田を維持してきたことが最大の要因である。

しかしながら、その水田環境を支える農業従事者の高齢化による担い手不足が深刻化し、青年就農者の確保や集落営農組織（法人化）の育成が課題となっている。このため、人・農地プランを活用しながら、担い手の確保や農業生産法人等への農地集積を推進しているが、佐渡市の高齢化率は40.3%となり、販売農家数も平成22年の5,332戸から平成27年には4,313戸（※農林業センサスより）と約1,000戸減少しており、その72.9%が60歳以上の高齢者となっている。

更には、近年は地球温暖化をはじめとした気候変動が深刻化し、干ばつをはじめ、相次ぐ台風の接近、通過などで、大きな農業被害が発生しており、このことから農業従事者の生産意欲の低下につながり、持続的に農地を維持していくことが困難な状況となっている。

特に中山間地域においては、10～20年後には耕作を放棄する農地が大半を占めることになると考えられ、食糧の供給機能のみならず、生物多様性豊かな環境、景観、涵養機能、農耕文化など多様な機能も失う恐れがある。

このことから、持続的に水田の多面的機能を維持していくことが最も重要であり、需要に応じた主食用米の栽培を中心として、需要のある米粉用米、WCS用稲の作付拡大及び野菜との二毛作の推進、佐渡市が重点品目と位置付ける園芸作物の振興と水稲との複合経営による農家所得の向上などに重点的に支援し推進することが求められている。

## 2 作物ごとの取組方針等

### （1）主食用米

#### ア 家庭用米

トキと共生する生物多様性農業の取組みと併せ、引き続き「佐渡米品質向上プロジェクト」を佐渡市の重点事業と位置づけ、高品質・良食味米生産を軸とするとともに、国際水準GAP認証取得なども推進し、多様な需要に応じた売れる米づくりを行う産地を確立する。

#### イ 業務用米

近年、多発する異常気象に対応し、安定した収量・品質を確保するために、早生品種を中心に多様な品種の作付を推進することで、新たな需要を開拓し、持続可能な営農体制の構築を図る。

## (2) 非主食用米

### ア 飼料用米

産地交付金を活用して、複数年契約の支援を推進するとともに、フレコン出荷や、規模拡大を推進することで、生産コストの低減による農家所得の向上を図る。

また、家畜排泄物を利用した堆肥の活用による資源循環の取組を推進する体制を整備し、耕種農家と畜産農家との連携を推進することで収量の向上と品質の安定化を目指す。

### イ 米粉用米

地域での米粉加工事業が拡大し、全国的にも米粉の需要も高まっていることから、収量向上に取組む農業者を支援し、フレコン出荷や規模拡大を推進することで、生産コストの低減を進めるとともに、複数年契約の取組を支援することで、農業経営の安定化と需要の見込まれる地域内の流通量の確保を図る。

### ウ 新市場開拓用米

輸出用米については、県内の主たる輸出事業者の集荷目標を下回っている状況であることから、新市場開拓用米を対象に、複数年契約の取組を進め生産拡大を図る。

また、生産者やJA等の関係者にも働きかけ、安定的な供給体制の構築を進めるとともに、需要拡大に向け、実需者とのマッチングを推進する。

### エ WCS用稲

大型和牛繁殖施設が完成し、計画的な増頭が進んでいることで、WCS用稲の作付けが拡大しているとともに、畜産農家と耕種農家及び関係機関の連携により、コントラクターの組織化が実現し、その作業の効率化が図られた。

このことから、今後も生産拡大が進むことから、産地交付金を活用して、コントラクターの利用率100%を維持し、更なる生産機能の高度化を推進することで、粗飼料の島内生産量の確保と安定的な供給体制を構築する。

また、家畜排泄物を利用した堆肥の活用による資源循環の取組を推進することで、収量の向上と品質の安定化を目指す。

### オ 加工用米

主食用米の作付とともに、水田の機能を保つため加工用米を最大限に活用することとし、需要に応じた米生産を図るとともに、効率的な生産体制を整備するため、フレコン出荷や規模拡大を推進するとともに、複数年契約の取組を推進することで、需要に応じた米生産の安定化を図る。

### カ 備蓄米

水稻施設・機械等を利用でき、水稻農家の生産意欲の維持にもつながることから、備蓄米の取り組みを有効に活用し、備蓄米による安定的な所得確保に向けた取組を推進する。

## (3) 大豆、飼料作物

大豆については、需要が見込まれるため、多収品種の作付を推進するとともに、収量を高めるための技術に取り組む農家に対して支援することで、生産・販売量の拡大を推進する。

飼料作物については、大型和牛繁殖施設の増頭計画に併せて、安全・安心な佐渡和牛・乳牛の育成によるブランド化を推進するため、担い手や地域内流通の取組及び作業の集約を支援し、水田における粗飼料生産の拡大と島内における自給体制の整備を図る。また、地域の貴重な資源を活用しつつ収量及び品質の向上を図るため、家畜排泄物を利用した堆肥の活用による資源循環の取組を推進する。

#### (4) そば

そばについては、気象条件による影響を受けやすく安定生産が課題となっているが、中山間地域で作付けする作物としては有効であることから、契約栽培の推進と作業の集約、収量を高めるための技術に取り組む農家に対して支援することで、生産・販売量の拡大を推進することにより農家の所得向上を目指す。

#### (5) 高収益作物（園芸作物等）

野菜については、作付面積が一定程度確保されているにもかかわらず出荷・販売に結びつく取組が少ないことから、地産地消による自給率の向上を中心として、販路を確実に結びつけることで、園芸品目の作付拡大を目指している。米の作付だけではなく、野菜等園芸作物との複合経営、また、WCS用稲や飼料用米収穫後の未利用の農用地を有効活用するため野菜の二毛作を推進し農家所得の向上を図る。需要に応じた振興品目を特定して作付けを推進するとともに露地栽培から安定生産につながる施設園芸への転換を推進する。

種苗類については、農家の所得向上を図るため、産地交付金を活用して、生産の拡大を推進する。

果樹については、技術の高位平準化による高品質化栽培に取り組み、特産果実としての生産・販売を組織的に推進する。また、複合営農化により農家の所得確保と担い手の育成を図るため、柿、西洋梨に加え、りんご、おうとう、うめなど高収益が見込まれる品目を追加することで生産規模の拡大と品質の向上を図る体制を構築し、ブランド化を推進する。

花きについては、岩ユリや盆花等需要に応じた取組を推進する。

その他穀類・豆類については、生産量が少なく地域で消費される量に追い付いていない状況にあることから作付けを推進する。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	5,167	5,150	5,500
うち家庭用	5,148	5,132	5,210
うちコシヒカリ	4,437	4,316	4,399
うち業務用	19	18	18
飼料用米	190	154	100
米粉用米	4	7	12
新市場開拓用米	9	10	20
WCS用稲	129	133	135
加工用米	88	34	80
備蓄米	404	378	280
麦	4	6	2
大豆	39	40	35
飼料作物	60	61	60
そば	65	57	65
その他地域振興作物			
・野菜	37	36	46
・果樹	2	3	2
・花き・球根類	3	3	2
・その他	2	2	2

### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	種苗類 (採種)	作付拡大支援 (地域振興作物)	作付面積	(2019年度) 2.1ha	(2020年度) 2.2ha
2	野菜・果樹	作付拡大支援 (自給率向上作物)	作付面積	16.9ha	19ha
3	野菜 (特選野菜)	作付拡大支援 (特選自給率向上作物)	作付面積	15.0ha	17ha
4	果樹	作付拡大支援 (地域振興作物)	作付面積	2.0ha	2ha
5	WCS用稲	地域内流通助成	取組面積 コントラクター利用率	129.3ha 100%	133ha 100%
6	米粉用米	地域内流通助成	作付面積 収量	1.1ha 406.0 kg/10a	2ha 525 kg/10a
7	飼料用米 WCS用稲 飼料作物	耕畜連携助成 (資源循環)	取組面積 収量(飼料用米) (WCS用稲) (飼料作物)	53.9ha 0 kg/10a 4.9ロール/10a 1,847 kg/10a	56ha 660 kg/10a 6ロール/10a 2,700 kg/10a

8	新市場開拓用米	新市場開拓用米 取組助成	作付面積	9.9ha	10ha
9	飼料用米 米粉用米	複数年契約助成	飼料用米複数年契約取組面積・数量 飼料用米作付面積・数量 米粉用米複数年契約取組面積・数量 米粉用米作付面積・数量	- - - -	40ha・211t 170ha・897t 3ha・15t 7ha・37t
10	そば	そば作付助成	作付面積	52.6ha	71ha
11	加工用米 飼料用米 米粉用米	生産コスト低減助成 (フレコン出荷)	フレコン出荷導入面積 フレコン出荷導入割合	51.6ha 18.1%	61ha 27%
12	加工用米 飼料用米 米粉用米	生産コスト低減助成 (共同乾燥調製 施設利用)	導入面積 平均経営面積	60.4ha 1.6ha	65ha 1.7ha
13	大豆	収量向上支援 (多収品種)	多収品種作付面積 多収品種収量	22.2ha 149.0 kg/10a	23ha 250 kg/10a
14	大豆・そば	収量向上支援 (収量向上技術)	大豆取組面積 そば取組面積 大豆収量 そば収量	34.7ha 5.8ha 129.0 kg/10a 18.0 kg	39ha 25ha 111kg/10a 29 kg/10a
15	キャベツ、ブロッ コリー、たまねぎ	二毛作加算	作付面積 10a 売上	219.6a 94.6 千円/10a	300a 200 千円/10a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。